

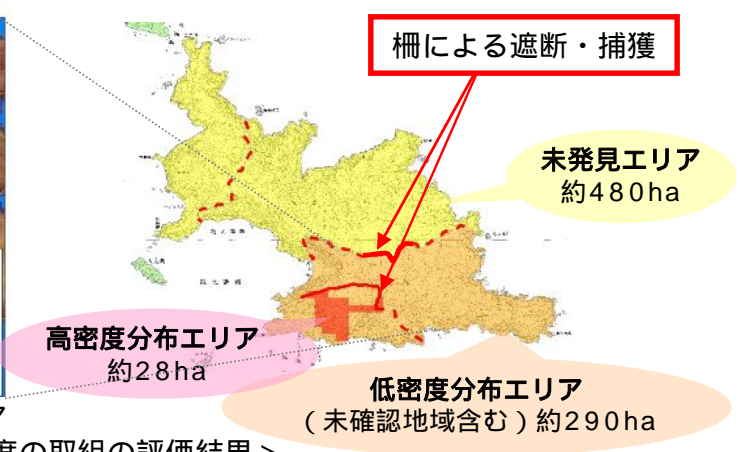
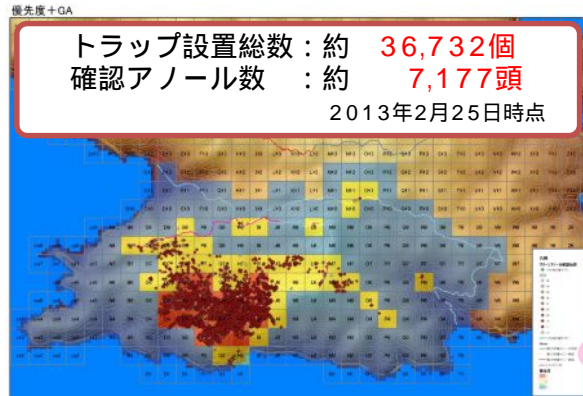


環境保全対策の進捗 ～新たな課題への取組～

平成25年度は、侵略的外来種の侵入・拡散にともなう2つの緊急対策が実施されました。

兄島のグリーンアノール対策の現状

兄島のグリーンアノールの駆除のため、遮断柵の設置やトラップによる捕獲を進めています。



赤・黄塗箇所が、グリーンアノールの確認エリア

<平成25年度の取組の評価結果>

評価項目	概要
捕獲によるアノール生息数の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに生息が確認された範囲では、密度をかなり低減できた。 ・繁殖を抑えるのに重要なメス成体の捕獲が少ない。 捕獲が効果的に密度低減に寄与しているかがわからない。
分布域の推定	<ul style="list-style-type: none"> ・推定分布エリアは、178ha。(左上地図の赤・黄・青塗のエリア) ・トラップや捕獲柵での検出状況からは、拡散が頻繁に生じてはいないと考えられる。
昆虫群集への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、捕食による昆虫への著しい影響は見られていない。
兄島生態系への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・トカゲ類等の混獲が多く見られるが、影響はまだ評価できていない。 ・柵の設置のための樹木伐開は、植生や陸産貝類への影響を回避する配慮がなされた。結果、伐採した木の多くで、萌芽が見られた。

来年度も対策を続けながら、環境影響の評価や、混獲を減らす技術開発にも取り組んでいきます。

父島鳥山におけるプラナリア対策、陸産貝類の保全

父島島内で希少な固有陸産貝類が残る数少ない場所である鳥山地域で、天敵の貝食性プラナリアが確認されました。

緊急対策として、プラナリア検出板による生息エリアの把握、陸産貝類を守る囲い柵の整備、陸産貝類の緊急回収と生息域外飼育を行いました。



環境保全対策の進捗 ～ 保全施策の成果～

これまで取り組んできたノヤギ排除やノネコ対策等の環境保全施策の成果が見られました。

聟島列島のアホウドリ類が順調に増えています

聟島列島と父島列島で行われてきたノヤギ排除の結果、次のような成果が見られました。

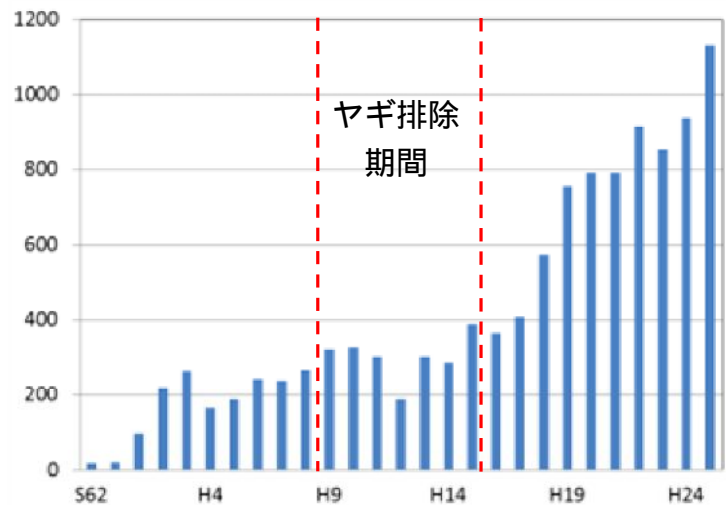
< 父島山周辺での草本類の生育変化 >



対策 聟島列島・父島列島におけるノヤギ排除

成果 在来樹木の稚樹や草本類が大幅に増加
海鳥類の繁殖も拡大傾向

< 聟島列島でのクロアシアホウドリ繁殖数の変化 >



アカガシラカラスバトの目撃数が増えています

父島で行われてきたノネコ対策の結果、多数のアカガシラカラスバトが集落や農地周辺に出現しました。一方、集落域での出現が増加したことで、交通事故、バード・ストライク、ネコ被害等のトラブルも増えています。

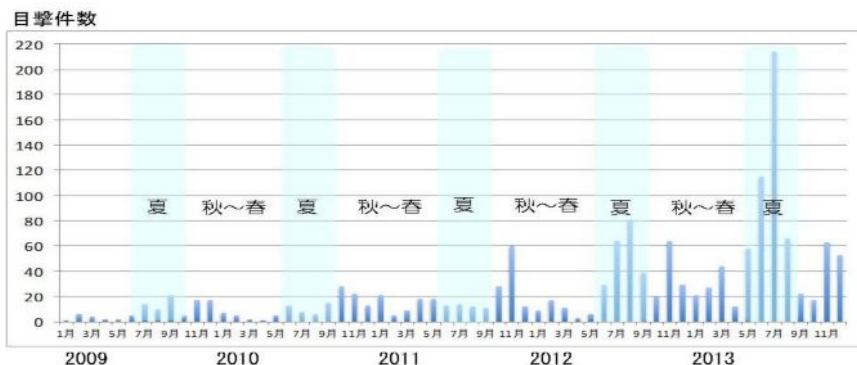


母島に出現したアカガシラカラスバトの群れ
(2013年7月) 写真提供：小笠原自然文化研究所

対策 父島山域でのノネコ捕獲と島外搬出
侵入防止柵によるハトの重要繁殖地の防除
飼い猫の適正飼養
集落域での交通事故やバード・ストライクへの対応

成果 山域のネコの確認頭数が減少
父島島内でのアカガシラカラスバトの目撃
件数の増加。母島への飛来。

< 父島島内におけるアカガシラカラスバトの月別目撃件数 >



(NPO法人小笠原自然文化研究所、及び環境省資料)

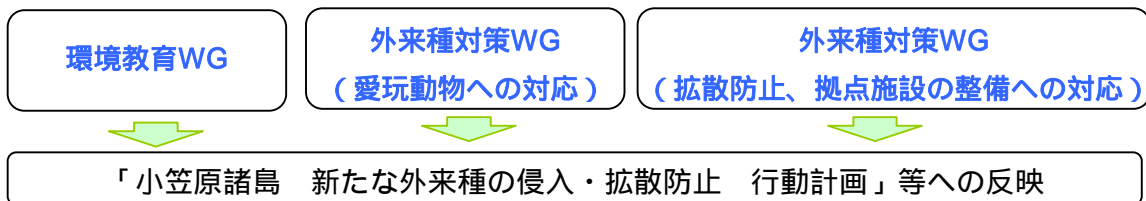
村民意見交換会・地域連絡会議・科学委員会の開催

「遺産価値の維持と住民生活との共生」を実現するために、村民の皆様や関係団体の代表者との意見交換を行いました。会議で共有された地域の課題や今後の対応については、専門家の集う科学委員会に報告され、方針を確認しました。

村民意見交換会（母島 1/25、父島 2/2） 兄島視察会（2/1）

新たな外来生物拡散、ペット等の動物の適正飼養、環境教育等、自然再生事業の取組と村民生活との接点に関するテーマについての意見交換が行われました。環境教育と外来種対策については、新たなワーキンググループを設けて議論を進めることとしました。

<新たに設置されるワーキンググループ>



兄島視察会の開催

意見交換会の前日には、兄島のアノール対策の現状を理解していただくための、兄島視察会が開催しました。参加者からは、「このような現場での取組紹介が環境教育として有意義である」とのご感想をいただきました。今後も、自然遺産の価値や環境保全の取組を現場でご覧いただく機会を設けていきます。



地域連絡会議（3/3）

オガサワラオオコウモリによる農業・園芸作物への被害、ネズミによる畑地や集落での被害等の課題が指摘されました。様々な組織・機関と連携して、早急に対策を検討する場を設けます。

科学委員会（3/19）

島内で議論された地域の課題や対応の考え方について、島内外の関係機関・専門家に報告し、今後の方針を確認しました。特に村民生活と深く関わる部分では、以下のような要請がありました。

外来種対策に対する島民の理解を得るため、地域の声を吸い上げるしくみを強化すること
生活圏おけるネズミ対策について、各管理機関や検討会が連携して議論する場を設けること
農業振興と外来種対策が共存できるよう、農業にも配慮しつつ外来種対策を進めること
ペットの適正飼養に関し、島民への効果的な情報提供や普及・啓発の方法を検討すること
島民が遺産価値を実感できる機会や、外来種対策事業の成果を見られる機会を増やすため、属島への島民の渡航機会を確保するよう努めること

詳細は、小笠原自然情報センターのホームページで公開しています。

外来種対策拠点施設の整備

外来種対策を行うための機能を備えた施設が、父島、母島にそれぞれ建設されます。属島を中心とする自然再生の取り組みを行う施設で、一般にも開かれています。

<新たに侵入する外来種対策の考え方>

外来種対策拠点施設の果たす役割

	本土から諸島内への侵入	有人島から属島への侵入
意図的な持ち込み	ペットの適正飼養 ペットの避妊治療等を行えるよう準備	-
意図しない侵入	産業資材、生活物資全般のチェック体制 中長期的課題とし、本施設では扱わない	調査、事業等に伴う外来種の拡散防止 「調査道具を冷凍、くん蒸して保管できる場所」として整備

<外来種対策施設が備える 4 つの機能>

外来種の検査・処置機能
保全事業の拠点としての機能
保全管理に関する情報の集約・発信機能
管理運営機能

<整備予定の部屋> (父島施設の例)

検査・処置室
くん蒸室/クリーンルーム/倉庫
希少種保護・増殖室
多目的室
管理事務室

施設の整備予定地と基本情報

<父島施設>

建築面積：961 m²
階数：2 階建て

<母島施設>

建築面積：120 m²
階数：1 階建て
(2015年3月完成予定)

建築面積や整備予定の部屋は、今後変更する可能性があります。



お問い合わせ先

本チラシに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

環境省小笠原自然保護官事務所

Tel/Fax：04998-2-7174/7175

E-Mail：RO-OGASAWARA@env.go.jp

林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター

Tel/Fax：04998-2-3403/2650

東京都小笠原支庁

Tel/Fax：04998-2-2123/2302

小笠原村総務課企画政策室

Tel/Fax：04998-2-3111/3222

詳しい情報は下記のホームページをご覧ください。
小笠原自然情報センターHP：<http://ogasawara-info.jp/>